

越後駒ヶ岳、平ヶ岳、会津駒ヶ岳山行記 奥只見湖を囲む3座登頂をめざして

13日(晴れ) 吹田6:00出発～北越自動車道～奥只見シルバーライン～銀山平15:30着、民宿樹湖里(泊)

さっそく白銀の湯へ。夜は岩魚の造り、ここみの天ぷら、ネマガリダケのゴマ和えなどなど。三座完登を期して、まずは乾杯!

越後駒ヶ岳(魚沼駒ヶ岳)

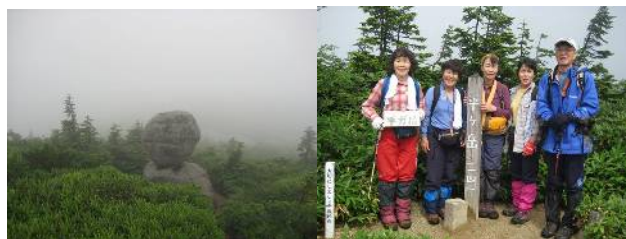
14日(晴れのち曇り) 枝折峠登山口4:30出発
登山道はなかなかの急登である。明神峠～道行山～小倉山と、むし暑いなか水分補給の連続である。曇り空と早い出発のお陰で登りやすい。うっそうと茂る草のむこうに百草池が見える。

ガスが出て雨も少し降ってくるなか長い登りが続く。ときおり鳴いてくれるウグイスが元気づけてくれる。前駒1763mを過ぎると目の前の山並みに雪渓がみえる、もう少しだ。急登をつめていくと水音がしている。駒の小屋到着である8:55。

荷物を置き頂上へ。何の守り神だろうクマソのような銅像がおいてある。

魚沼駒ヶ岳2003m 9:25 1座登頂である。

越後三山の一つ中ノ岳がガスのなかで絵ハガキして



たまご石

平ヶ岳頂上

念写真を撮るときにはなぜか晴れてくれる。

高槻労山の人達と無事の下山を期し、エール交換して別れる。姫池までいくが雨がひどくなり雨具をつける。

晴れてくるとむし暑く虫も顔の周りをうろつく。朝渡った沢で休憩。水が冷たくて気持ちいい。

中ノ岐林道 11:45着。

迎いの車に乗る。崖から落ちる水は滝のよう、頂上の雪渓が雨でとけて落ちてきているのだろうか。でもよくゆれること、途中リーダの車に乗り換え桧枝岐の見通りキャンプ場へ15:30着。

バンガロウの中のハチ騒ぎと虫騒ぎで興奮して眠れなかった。夜中凄雨がふる。

会津駒ヶ岳

16日(雨のち曇り) 滝沢登山口 5:40出発。

雨のなか、木の根道の急登が続く。虫もいっぱい向かってくる。汗の匂いがすきなのだろう。

オオシラビソ、ブナの樹林帯がつづく。樹林の間からならかな尾根が見え隠れする。

湿原地にはいると木道がつづき目の前は高山植物の世界だ。



中ノ岳

いる。朝みえなかった景色に目をやりながら下山する。枝折峠14:10着。駐車場で高槻労山の人達5人と会う。明日の平ヶ岳での再会を約し別れる。

足に“身が入って”痛い。水で冷やし、湯の中で揉みほぐす。“すぐ痛くなっても若いからではない”リーダの優しいお言葉。早く寝よう明日も早い。

平ヶ岳

15日(曇りのち雨のち晴れ) 中ノ岐林道登山口5:25出発。

民宿のご主人に登山口まで送ってもらう。ガタガタ道で揺れる事ゆれること。

樹林帯とガスと雨の登山道を登る。

低い樹木が続くと視界が広がり湿原地がみえてくる。池塘がガスってる。



ガスのなかの池塘とモウセンゴケ

分岐からたまご石に、名の通りたまごを2つ乗せたようなこっけいな岩である。

平ヶ岳山頂9:05。これで2座目。

ガスが出ていたり雨が降ったりしていても、頂上で記



駒ノ小屋

ガスの中の駒ノ小屋を眺めながらコーヒータイムしていると、たたきつける雨に遭い、小屋に飛び込む。今は避難小屋でもエコトイレである(し尿をヘリコプターで運ぶため有料)。私も参加させてもらった。

会津駒ヶ岳1324m 9:30着 無事3座登頂。

中門岳に向かうころには雨もやみはじめる。木道の周りは池塘とコイワカガミ、ハクサンコザクラ、チングルマの穂、コバイケソウなど高山植物の宝庫である。でもササが侵略してきて根をはり、湿原地を変えてしまうそうである。



中門ノ池

中門ノ池に写る景色にサヨナラをして下山する。朝は気づかなかつたが登山口に近づくほど樹木にナイフで字が彫ってある、何本もである。痛々しい。

滝沢登山口 14:05着。

ハギ、ススキ、アキアカネと、山はもう秋だ。楽しい山行でした。(久木元 記)